光の濃度

ガラスはそこに存在しつつも、見える見えないといった人からの認識が変化する曖昧な存在である。

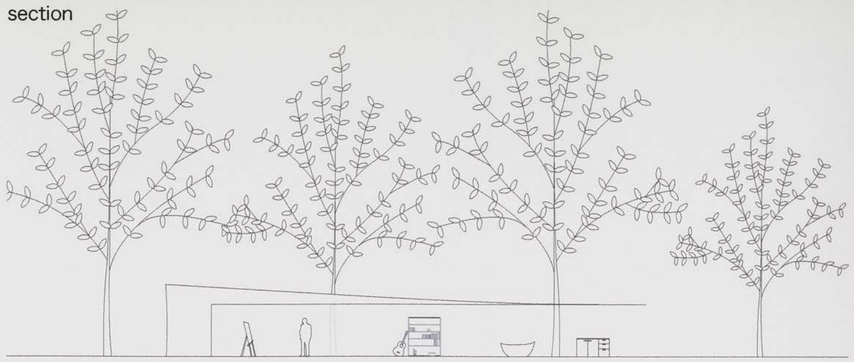
ガラスは視線を遮ることなく空間を仕切る。視線を通すガラスの存在に人は気づかない。

しかし、ガラスを厚くすると、光は屈折し、景色がゆがんで見える。
人はそこで初めて、ガラスがそこにあることに気づく。

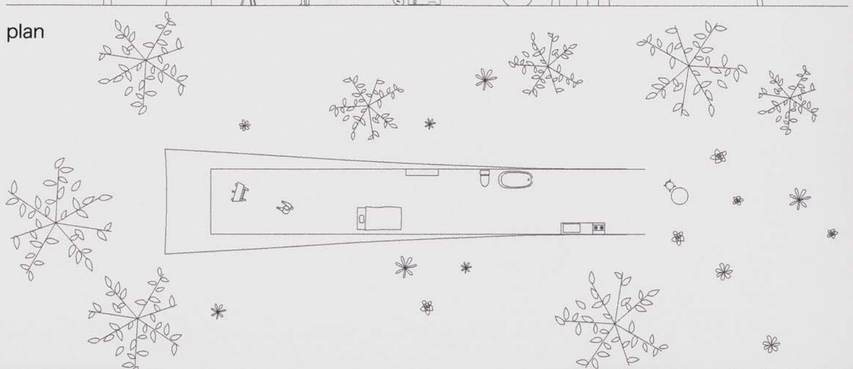
ガラスの厚みを変化させた建築をつくる。

厚いところではゆがめられ、抽象化された風景が、ガラスの内部にいることを認識させる。
薄くなると徐々にガラスが認識できなくなり、ガラスの内外が曖昧になっていく。

section



plan

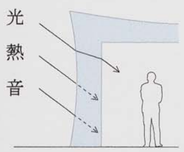


ガラスが薄くなり内外が曖昧になる

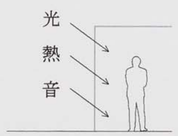
風景が歪められた空間

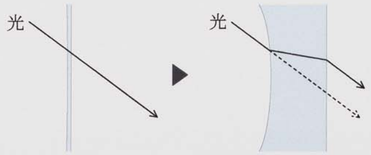
□ガラスの厚みによる空間の変化

・厚いガラス
光は曲げられ景色はゆがむ。
音や熱は厚いガラスに吸収され、内部と外部は遮断される。



・薄いガラス
光だけでなく、音や熱も透過し、
内部と外部が曖昧になる。



□光をゆがませるガラス

壁面の湾曲や、厚いガラスが光をゆがませる。
透明な存在だったはずのガラスが認識される。